

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
〒 641-0011 和歌山市三葛 580 番地
和歌山県立医科大学保健看護学部内
専用 FAX 番号：050-3737-1042
発行責任者・森岡郁晴（地方会会長）
<http://jsoh-kinki.jp>

第 57 回近畿産業衛生学会

主 催	日本産業衛生学会 近畿地方会
後 援	奈良県医師会
学 会 長	田村 猛夏（国立病院機構奈良医療センター副院長）
日 時	平成 29 年 11 月 18 日（土）9 時 30 分開始
会 場	奈良県文化会館
一 般 演 題	9：35～11：05 第 1 会場（小ホール） 9：35～10：55 第 2 会場（集会室 A・B）
教育講演 1	11：10～12：00 第 1 会場（小ホール） 「産業衛生上問題となる感染症とその対策」 座 長：久下 隆（国立病院機構奈良医療センター内科医長） 演 者：笠原 敬（奈良県立医科大学感染症センター・准教授）
教育講演 2	11：00～12：00 第 2 会場（集会室 A・B） 「職場のメンタルヘルス」 座 長：萩原 聡（ひまわりクリニック院長） 演 者：岩崎 進一（大阪市立大学大学院医学研究科・神経精神学・准教授）
幹 事 会	12：05～13：05 特別集会室
ランチョンセミナー	12：05～13：05 第 1 会場（小ホール） 12：05～13：05 第 2 会場（集会室 A・B）
代議員会・総会	13：10～13：40 2 階 小ホール
表 彰 式	13：45～14：05 2 階 小ホール
特 別 講 演	14：15～15：15 2 階 小ホール 「職場の喫煙対策最新情報～受動喫煙防止から新型タバコまで」 座 長：車谷 典男（奈良県立医科大学医学部長） 演 者：高橋 裕子（京都大学大学院医学研究科・社会健康医学専攻・特任教授）
シンポジウム	15：25～17：05 2 階 小ホール 「奈良県における石綿関連疾患の現状と今後」 座 長：田村 猛夏（国立病院機構奈良医療センター・副院長）他 奈良県の現状 1) 奈良県における石綿関連疾患について 労災と救済法の認定について 2) 石綿曝露者の健康管理に係る施行調査について 奈良県医療政策部保健 予防課 石綿関連疾患の診療を行って 1) 当院で経験した症例から 徳山 猛（済生会中和病院・内科部長） 2) 周辺住民における石綿関連疾患症例について 田村 猛夏（国立病院 機構奈良医療センター・副院長） 問題点と今後の課題
懇 親 会	17：30～ 奈良県文化会館内
専用ホームページ	http://jsoh-kinki.jp/jsohkink-57/index.html



学会開催のご挨拶

国立病院機構奈良医療センター 田村 猛夏

第57回近畿産業衛生学会を奈良市の奈良県文化会館で、開催いたします。奈良県文化会館は、近鉄奈良駅の東出口①から出ていただきますと、約5分で到着します。また、奈良公園に隣接し、早朝など鹿が来て、庭の芝生を食べています。開催日頃には、木々の葉も、色づいてきて、散策にはうってつけの季節になっていると思います。今回は、「産業衛生と臨床医学のコラボレーション」をテーマとしております。両者は、密接に関係しており、内容も、これにマッチするように、教育講演、特別講演、シンポジウムなどを企画いたしました。

ランチョンセミナーも2題設定できましたので、会場でじっくりと、講演を聴いていただけたと思います。奈良にまで来ていただきますので、第57回近畿産業衛生学会に出席して、得るところがあったと、思っただけのようにしたいと考えております。

また、会場内で懇親会を企画いたしておりますので、是非、ご参加していただき、懇親を深めていただきたいと思います。土曜日の夜ですし、近鉄奈良駅にも近いので、ゆっくりと懇親を深めていただくことができますと思います。

第57回近畿産業衛生学会プログラム

一般演題（口演）

9：35～11：05 第1会場（2階小ホール）

9：35～10：25

(101) 運動習慣が心理的ストレスや睡眠に与える影響についての一考察

内田 陽之（京都工場保健会 御池メンタルサポートセンター）他

(102) 金融業における労働者の運動定着状況と検診結果との関連

原 共乃（近畿労働金庫 健康管理センター）他

(103) 金融業における労働者の身体活動促進への教育的介入効果の検討

松本 大輔（畿央大学 健康科学部 理学療法学科）他

(104) 非特異的腰痛対策としての簡便体操

浅田 忠成（大阪労災病院 治療就労両立支援センター両立支援部門）他

(105) がん治療と就労の両立支援に関する活動報告

藤吉 奈央子（大阪産業保健総合支援センター）他

10：25～11：05

(106) ストレス・疲労の客観的評価と統計的有意性を持つ面接指導のための完全データセットの開発を中心に

栗野 菊雄（あわの診療所）他

(107) 部下のストレスチェックの結果から上司のリーダーシップ行動を読み取る

辻田 敏（辻田労働衛生コンサルタント・産業医事務

所 うめだ社外健康管理室）他

(108) 仕事ストレスに対する産業衛生政策の日本と台湾における比較研究—日本のストレス・チェックに焦点をあてて—

小笠原 理恵（大阪大学大学院人間科学研究科）他

(109) 製造事業所における短時間食イベントが食意識に与える効果について

内藤 あけみ（ジャスコ（株）安全健康管理部）他

9：35～10：55 第2会場（2階集会室A・B）

9：35～10：15

(201) 尿中オルトトリルイジンのルーチン分析のためのGC-MS分析の開発

青野 宏美（中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター 分析測定室）他

(202) 機械学習による有機溶剤特殊健康診断の二次判定を行う際に医師が重視している要素の抽出

西田 典充（京都工場保健会 壬生保健センター 産業保健推進室）他

(203) ビデオばく露モニタリングによる化学物質のばく露状況の把握について

宮内 祐介（中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター 分析測定室）他

(204) 冷水浸漬試験（10℃ 10分法）で誘発した林業従事者のレイノー現象

竹村 重輝（和歌山県立医科大学 医学部衛生学教室）他

10 : 15 ~ 10 : 55

(205) レセプト情報を用いた単一の職域健保組合における大腸がん検診の感度・特異度の測定

祖父江 友孝 (大阪大学大学院医学系研究科環境医学) 他

(206) あなたは塩分をどれだけとってる? 減塩から始めるいきいき健康ライフ

中家 和子 (パナソニック (株) 人材開発カンパニー健康管理室) 他

(207) 中小企業における勤労高齢者の Work Ability Index と生活習慣との関連 (動脈硬化要因を関連付けて)

井谷 美幸 (大阪労災病院 治療就労両立支援センター) 他

(208) 眼底血管は生活習慣や危険因子を反映するが、喫煙はそれをマスクする

岩根 幹能 (新日鐵住金和歌山製鐵所・安全環境防災部・安全健康室 NS メディカル・ヘルスケアサービス和歌山診療所) 他

教育講演 1 (2 階 小ホール) 11 : 10~12 : 00

「産業衛生上問題となる感染症とその対策」

座長: 久下 隆 (国立病院機構奈良医療センター内科医長)

演者: 笠原 敬 (奈良県立医科大学・感染症センター・准教授)

教育講演 2 (2 階 集会室 A・B) 11 : 10~12 : 00

「職場でのメンタルヘルス」

座長: 萩原 聡 (ひまわりクリニック院長)

演者: 岩崎 進一 (大阪市立大学大学院・神経精神学・准教授)

幹事会 (特別集会室) 12 : 05~13 : 05**ランチョンセミナー 1 (2 階 小ホール) 12 : 05~13 : 05**

「日常診療において気になる石綿関連疾患」

座長: 徳山 猛 (済生会中和病院内科部長)

演者: 畠山 雅行 (東京都結核予防会顧問 奈良県立医科大学放射線医学教室 労働衛生コンサルタント)

ランチョンセミナー 2 (2 階 集会室 A・B)**12 : 05~13 : 05**

「睡眠時無呼吸の社会的影響と管理について」

座長: 玉置 伸二 (国立病院機構奈良医療センター診療部長)

演者: 大西 徳信 (天理市立メディカルセンター内科部長)

代議員会 (2 階 小ホール) 13 : 10~13 : 40**表彰式 (2 階 小ホール) 13 : 45~14 : 05**

近畿産業衛生学会優秀演題賞

第 57 回近畿産業衛生学会若手奨励賞

特別講演 (2 階 小ホール) 14 : 15~15 : 15

「職場の喫煙対策最新情報～受動喫煙防止から新型タバコまで」

座長: 車谷 典男 (奈良県立医科大学・医学部長)

演者: 高橋 裕子 (京都大学大学院医学研究科・社会健康医学専攻・特任教授)

シンポジウム (2 階 小ホール) 15 : 25~17 : 05

「奈良県における石綿関連疾患の現状と今後」

座長: 田村 猛夏 (国立病院機構奈良医療センター副院長) 他

奈良県の現状

1) 奈良県における石綿関連疾患について 労災と救済法の認定について

2) 石綿曝露者の健康管理に係る施行調査について 奈良県医療政策部保健予防課

石綿関連疾患の診療を行って

1) 当院で経験した症例から

徳山 猛 (済生会中和病院内科部長)

2) 周辺住民における石綿関連疾患症例について

田村 猛夏 (国立病院機構奈良医療センター副院長)

問題点と今後の課題

懇親会 (奈良県文化会館内)**17 : 30~**

第 57 回近畿産業衛生学会開催要項**1. 参加申込**

可能な限り事前申込をお願いいたします（ホームページをご確認ください）。

2. 会場およびアクセス

会場：奈良県文化会館

〒 630-8213 奈良県奈良市登大路町 6-2

TEL：0742-23-8921 FAX：0742-22-8003

アクセス

JR 奈良駅から奈良交通バス 市内循環外回り約 5 分
乗車 「県庁前」下車西へ徒歩約 2 分

近鉄奈良駅東口①番出口から、奈良公園に向けて徒歩
約 5 分

3. 受付・参加費

参加受付

11 月 18 日（土） 午前 9 時 20 分から 16 時まで、奈
良県文化会館 2 階小ホール前で、行います。

参加費

日本産業衛生学会の学会員 1,000 円

非会員 2,000 円、大学院生・学生 1,000 円

日医産業医研修の単位取得には別途 3,000 円

4. 一般演題の演者の方へ

1) 1 演題につき 10 分（口演 7 分＋質疑 3 分）です。会
場内に次演者席を用意しています。

2) 発表には Power Point をご使用ください。発表用
ファイルは、11 月 13 日（月）までに、E-mail 添付で事
務局へ送信してください（当日差し替えは可能）。

5. 幹事会および代議員会

幹事会	12：05～13：05	2 階	特別集會室
代議員会	13：10～13：40	2 階	小ホール

6. 表彰式

一般演題の中から、優れた演題の発表者に対し近畿産
業衛生学会優秀演題賞を原則として 1 題選考し、表彰い
たします。

さらに、若手研究者を対象に第 57 回近畿産業衛生学
会若手奨励賞が選考され、併せて、表彰されます。

7. 懇親会

17：30 より、懇親会を会場内で、開催します。参加
費は、4,000 円（税別）です。ぜひご参加ください。

可能な限り、事前申込をお願いします。第 57 回近畿
産業衛生学会ホームページより「参加申込書」をダウン
ロードし、学会参加、懇親会参加に○印をご記入いた
だき、平成 29 年 11 月 6 日（月）までに、第 57 回近畿産
業衛生学会事務局まで FAX、E メール of the いずれかでお
申込み下さい。

学会当日も若干受付は可能ですが、数に限りがござい
ます。

8. 日本医師会認定産業医の方へ

日本医師会認定産業医 生涯研修認定単位をご希望の
方は、当日受付してください。教育講演、特別講演およ
びシンポジウムを受講されますと単位が取得できます。

9. 学会事務局

〒 630-8142 奈良市七条 2-789

国立病院機構奈良医療センター

第 57 回近畿産業衛生学会事務局

事務局 神原 正典

TEL：0742-45-4591 FAX：0742-48-3512

E メール：kinkis2017@nmcm.jp

ホームページ：<http://jsoh-kinki.jp/jsohkink-57/index.html>

選挙制度担当幹事からの電子投票導入についての提案とお願い

地方会会長・監事・代議員選挙の電子投票の導入について、折り込みをご覧いただきご意見をください。また、
日本産業衛生学会ホームページにて会員ログインしていただき、個人のプロフィール変更、とくにメールアドレスの
更新・確認をお願いします。

平成 29 年度 第二回幹事会議事録

日 時：2017 年 9 月 27 日（水）18：30～20：00

場 所：あべの貸会議室リンク大阪 ルーム B

出 席：森岡・中西・井上・圓藤（吟）・久保田・鈴木・
廣部・大脇・伊藤・上原・圓藤（陽）・清原・佐藤・
鮫島・竹下・堤・濱田・藤岡・丸山・村田・森口・
田村・岩根

欠 席：日高・豊川・藤吉（順不同・敬称略）

1. 平成 29 年度予算の執行状況

8 月末時点の予算執行状況の報告があり、承認された。

2. 平成 30 年度予算案

来年度の予算について説明があり、第三回幹事会で改めて検討することとした。

3. 選挙制度担当者会議からの報告

地方会会長・監事・代議員選挙の電子投票導入に関する地方会員への意見照会募集の説明があり、承認された。

4. 「大学・部会・研究会等との連携」プロジェクトの進捗状況

第一回目の研究室訪問について説明があった。プロジェクト紹介を地方会ニュース 112 号に掲載し、詳細および参加者募集はホームページより行うこととした。

5. 産業看護部会の研究助成金について

現在日本産業衛生学会倫理審査申請中の「近畿圏の産業保健に関わる保健師看護師の活動状況調査」研究費用の一部として研究助成金の請求があり、承認された。

6. 第 57 回近畿産業衛生学会（2017 年 11 月 18 日）の進捗状況

田村会長から準備状況の説明があった。

7. 第 58 回近畿産業衛生学会（2018 年）の準備状況

岩根会長から説明があった。

8. 第 59 回近畿産業衛生学会（2019 年）の会長委嘱

準備状況の説明があり、次回幹事会で審議することとした。

9. 第 66 回近畿地方会総会日程および会場

6 月土曜日に大阪市立大学医学部学舎で開催する予定で、次回幹事会までに日程および会場を決定することとした。

10. 地方会ニュースの発行状況と HP 更新状況

地方会ニュースの発行状況の報告と HP のアクセス件数・更新件数についての報告があった。モバイル端末からの閲覧が増えていることから、レスポンス対応の HP に変更することが承認された。

11. 本部理事会報告

圓藤理事と鈴木理事から資料に基づき説明があった。

12. その他

次回の幹事会は、11 月 18 日（土）11 時 40 分から、奈良県立文化会館で開催予定。

会員の異動（五十音順・敬称略）

〈新入会員〉

青野 宏美	中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター
跡部 優	社会医療法人愛仁会総合健康センター
池田 大輔	大阪大学大学院医学系研究科 公衆衛生学教室
岡本 裕子	三菱電機（株） 姫路製作所
川勝 圭介	一般社団法人日本ストレス調査協会 コンサルティングチーム
高橋 祐美	敬命会 吉川病院
千森 義浩	三菱電機（株） コミュニケーション・ネットワーク製作所
西田 和彦	長谷工クリニック
松本 大輔	畿央大学健康科学部 理学療法学科
南 瑠那	丹後中央病院
宮内 祐介	中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター

大学・部会・研究会の連携プロジェクトからのご案内

前号でご報告いたしましたように、大学・部会・研究会の連携プロジェクトとして、大学の社会医学系研究室のご協力を頂き、「研究室訪問」を実施することになりました。その第 1 回目のご案内を致します。

他の学会同様、産業衛生学会も学会活力を維持し発展させていくためには、特に若手研究者の方々に学会の議論を主導して頂くことが強く望まれています。また、産業医・産業看護職・その他の職種の中でも特に若手学会員に研究企画力・遂行力を高めて頂き、自立して活動して頂けるように道筋をつけることも学会活性化には重要です。「研究室訪問」を通じて、若手研究者同士が知り合い、お互い刺激を受けて他研究者の智慧や発想を自らの研究に活かして頂くことを期待しています。会員の皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

研究室訪問 第 1 回

大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学（磯 博康教授）

日時：2017 年 11 月 17 日午後 4 時半から 6 時半

場所：大阪大学銀杏会館 大会議室

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2

講演：今野 弘規 准教授、村木 功 助教

＜演題名は後日 HP に掲載予定＞

参加費（資料代）：500 円

参加申込：近畿地方会ホームページに申込用のメールアドレスを載せています。人数把握のために事前申込をして頂くことを期待しますが、当日参加も歓迎します。

（文責 久保田昌詞）

第90回日本産業衛生学会の報告

「第90回日本産業衛生学会 優秀演題賞を受賞して」

東芝ヒューマンアセットサービス(株)
姫路工場・保健センター

中野 修治



今回、第90回日本産業衛生学会にて、「専属産業医の事業場における在職死亡第19報（QQ継続調査2011-2015年、死因と健診結果）」をポスター発表し、優秀演題賞を受賞しました。

本演題は、阪神労働衛生コンサルタント（前みずほ）・廣部先生、産業医大・堀江先生・川波先生、前本田技研工業・田口先生、国立保健医療科学院・曾根先生とともに全国の専属産業医の協力のもと継続調査をしているものを、私がグループを代表して発表したものです。同学会では、曾根先生が「専属産業医の事業場における在職死亡第18報（QQ継続調査2011～2015年、死亡率と死因）」も発表しており、今回の受賞は2題合わせてのものと思っています。

本調査は、職域における在職者死亡の実態把握を目的として、1999年より当時のサンユー会を通じて全国の専属産業医に参加を募り、QQプロジェクトとして開始しました。その後、サンユー会は解散しましたが、調査は毎年継続し、今回の演題は2011年～2015年分の5年間の調査データより発表しました。調査は、調査前年の性・年齢別健康管理対象者数、死亡者数、個々の死因と直近の定期健康診断結果を産業医の方に提供頂き集計しています。個人情報保護にも配慮し、事業場や個人の識別情報は事務局で暗号化し、委員にもわからないようにしています。2010年人口動態統計と比較した本調査の男女別SMRは、男性が0.399、女性が0.354でした。死因では、男性はがんが46.4%で最も多く、次いで循環器疾患22.7%、自殺12.7%でした。女性は65.1%が何らかのがんで、自殺は16.3%でした。死因と健診結果の解析では、循環器疾患での死亡者に、高血圧、糖尿病、メタボリック症候群等が多い傾向を認めています。

最後に、本調査は調査に参加頂いている専属産業医の協力なしでは出来ないもので、この場を借りて長年協力頂いている産業医の方に深く感謝申し上げます。

第90回日本産業衛生学会の報告

「第90回日本産業衛生学会 優秀演題賞を受賞して」

産業技術総合研究所 関西センター

原田 暢善



この度、第90回日本産業衛生学会（2017年5月、東京）におきまして、「フリッカー値および自覚的疲労指標の経時的変動性とZung式うつ性自己評価尺度の関連」の題目で、優秀口演賞をいただきましたこと、審査員の先生方および産業衛生学会員の方々に深く感謝申し上げます。今回受賞しました研究に関しまして簡単にご説明させていただきます。

近年、うつの傾向と様々な生理データの関連に関して検討が進められています。健常者とうつ病障害患者の心拍変動の時系列データの自律神経機能の比較研究において、うつ病障害患者の心拍変動（HRV）は、時間領域解析（SDRR）における経時データの分散が、統計的に有意に小さく、自律神経活動がより減衰状況を示し（山崎ら、2010）、その状況は、環境に対する生体内での適応の応力の減少を意味すると推測されています。（持尾ら、2007）。

本研究におきましては、フリッカー値および自覚的疲労指標の経時データに関し、時間領域解析の分析法を適用し、経時データの分散とうつの指標との関連の検討を行いました。

各被験者をZung式うつ性自己評価尺度の健常関連設問のスコアおよび全設問のスコアの平均値を境に2群に分け、始業時および始業・昼休・終業時の全データでのフリッカー値の経時データの分散および自覚的疲労指標の平均値の比較を行いました。フリッカー値の計測はWindowsPCにインストールしたFHMシステムを用いて行いました。

健常関連設問のスコアにおいて、始業時のフリッカー値の分散の上位群が下位の群に比較して有意に減少していること（ $p=0.042$ ）が明らかになりました。さらに全データと健常関連設問双方との関係でフリッカー値の分散（ $p=0.038$ ）において有意差が確認されました。全設問では、自覚的疲労指標の平均値において、下位群に対し上位群が有意な値の増加（ $p=0.043$ ）が確認されました。

うつの指標が高い群が低い群に比較して、フリッカー値経時変動性の減少を示し、脳機能の力動的な変化の複雑性の減少、および環境に対する適応の応力の減少を反映すると考察されました。現在の労働現場での大きな課題であるうつの傾向のモニタリングを恣意性なしに実現しようという可能性があり、多くの方々にお使いいただき、ご活用いただければと思っています。

第90回日本産業衛生学会の報告

「第90回日本産業衛生学会 優秀演題賞を受賞して」

オムロン(株)健康管理センタ

今川 かおる



この度は優秀演題賞をいただきありがとうございます。数々の素晴らしい発表がある中、まさか自分が選ばれるとは夢にも思わず、大変恐縮しております。ご支援いただいた方々にはこの場を借りて感謝申し上げたいと思います。

今回「脳・心血管イベントゼロに向けた血圧測定スタディの健康管理への活用（第1報）」という演題で発表させていただきました。脳・心血管イベントについて一定のリスクがあると言われている家庭時のみの高血圧（仮面高血圧）について、実際の程度存在するのか、また今後の健康管理への活用について報告しました。弊社ヘルスケア部門の協力を受け、血圧計を無償提供することで、希望者ではありますが、家庭血圧を一定期間測定したデータをとることができました。また血圧計の機能により、自己申告の血圧値ではなく、血圧計から自動でサーバーに値が送信される仕組みを使ったことで、正確なデータを集めることができました。

今回の調査では、健診結果では分からない仮面高血圧者が2割程度おり、また年齢との相関も示されたことから、健診時血圧正常者においても家庭血圧測定の勧奨や高血圧予防のための保健指導などにも活用していきたいと思っております。また今回は、希望者を募ったことで、従来から血圧に興味を持っていた等健康意識の高い集団であった可能性もあり、今後は偏りのない集団での調査を行いたいと思います。

今回の受賞を励みにさらなる努力を重ねてまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第90回日本産業衛生学会の報告

「第90回日本産業衛生学会 優秀演題賞を受賞して」

(一財) 京都工場保健会

東本 恵



今回、初めて産業衛生学会に参加し、健康管理室の業務委託を受けるA事業場での取り組みを発表し、優秀演題賞を頂きました。このような素晴らしい賞を頂け、大変光栄です。

「A事業場における短時間保健師面談導入の成果」は、委託機関の限られた業務時間の中で、より多くの従業員のニーズを短時間で把握すること、健康管理室の認知度や健康意識の向上への効果を検討することを目的に取り組んだものです。保健師面談は、健康診断の会場で1人3分程度、健康生成論の考えを取り入れたニーズ調査票を用いて受診者全員に実施しました。その結果、自発的に健康管理室を利用する者の割合の増加や精密検査受診率の増加が得られ、また、その他にも、面談時の意見を元に、部署の状況を踏まえた要支援者へのフォローや事業場からの健康管理室への要望や提案の増加等へつながり、健康管理室活動の幅を広げることにつながりました。この結果からニーズ調査を活用した保健師による全員面談は、短時間で実施ができ、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの両方を兼ね、さらに健康管理室の認知度向上や健康意識の向上に有効であることが示唆されました。企業で看護職が全員面談を実施している所は少なくないですが、その取り組みの効果を可視化することが目を引き、評価を頂けたと考えています。取り組みの所感としては、健診の流れを乱さないように、頂いた貴重な時間を無駄にしないように考えながらの面談でしたので、簡単な業務ではありませんでしたが、働く人の全体像や健康課題がイメージできるようになり、専門職としてやりがいを感じました。

発表後は、貴重なご意見やご質問を多く頂き、検討していくべき課題を見つけることも出来たと感じています。今後も保健師として産業保健に携わっていく中で、労働者や職場のヘルスプロモーションに貢献するために、非常に貴重な機会を頂けたことを心から感謝いたします。

会員の声

教育・研究機関における
安全衛生管理について

荻野労働衛生コンサルタント事務所

荻野 博幸

私は京都大学大学院情報学研究科に教員として勤務し、平成16年に京都大学が独立法人になってから10年間、資格等を取得し衛生管理者、吉田事業場の衛生委員会委員をしてきました。その時に感じたことについて述べさせていただきます。

「日本社会の安全衛生の基盤は文科省の学校教育」にあり、日本の大学教育は義務教育・高校教育を経て大学に入学した学生の知識を基に教育システムが構成されています。しかし、近年、日本でも受験知識の尊重や大学検定、AO入学、飛び級など学生が多様化して、化学物質の取扱いを十分に学ぶ機会のない学生が増えています。また、学部で化学実験でも機器分析、計算機シミュレーション、分子設計など学ぶべきことが増えてきて、化学物質を取り扱う実践的な授業時間が足りなく

なっています。さらに、文部科学省は大学の国際化を進めていて、留学生は日本の教育システムとは異なり、大学に入って初めて化学物質を取り扱う学生もいます。その結果、化学実験の実践的経験や危険性又は有害性への感受性が育っていません。欧米では、特に米国では通称Laboratory Standardと呼ばれるOSHAの法令29 CFR 1910.1450 付属書Zがあり、日本も同様の対策が必要になってきました。その意味で、JAWE-IOHA 認定オキュペイショナルハイジニストの制度が注目され始めていますと実感しています。WHOは1990年代に1992a、1992bの勧告で、安全衛生の国際的な水準維持、向上に努めてきました。今後の予定としては国際認証プログラムがあります。その具体化がIOHAの認定オキュペイショナルハイジニストとOH Learningです。IOHAは会員として各国2機関が登録され、日本では日本作業環境測定協会が認定機関となっています。オキュペイショナルハイジニストの職域は勧告に従い予防で、産業医・産業保健師の職域とは明確に分けられています。日本も企業、大学の国際化が進むにつれて、安全衛生も国際的な資格制度が必要になってくると感じています。

...



メンタルヘルスとダイバーシティ

プール学院大学 教育学部教育学科

栗岡 住子

私は、NTTや医療機関での保健師、中学校の養護教諭を経て、旧住友金属工業(株)で保健師として20年間勤務しました。旧住友は安全衛生管理のレベルが高いうえ、本社勤務であったために、全社の施策を俯瞰することができ、直接に経営幹部の意見が聞けるなど、貴重な経験をすることができました。それらの経験を生かし、現在は企業で産業保健活動を継続しつつ、大学で後進指導をしています。

産業保健活動の中でも、メンタルヘルスケアに特に興味を持ち、メンタルヘルス不調の社員への対応だけでなく、全社員の健康度やパフォーマンスを高めることが必要だと感じました。また、社員全体の心身のデータの経過を見ていると、産業保健の施策よりも、経営方針や経営の状態、また職場単位ではマネージャーの特性により

社員の健康が影響を受けるのを痛感して経営学を学び始めました。

経営学の人材マネジメントの分野では、マネジメントやリーダーシップはストレスとは、関係づけて論じられていませんでしたが、大阪市立大学経営学研究科で指導した医療福祉施設の経営者である社会人大学院生は、全職員のメンタルヘルスケアを人材マネジメントの重要課題として認識していました。近年は健康経営として心身の健康と経営を関連付けて論じられていることに意を強くしています。

現在は、教育学部に在職していますが、学内プロジェクトで発達障害のある児童・生徒に対する授業における指導方法について検討しています。小・中学校の普通学級内でも一定割合の発達障害傾向のある児童・生徒がいるという前提で、指導方法を工夫することで、一般の児童・生徒の理解も高まることを目的にしています。

医療、経営、教育などの専門分野を超えて、障害のある人も含めた全ての人たちの有益性を考えるダイバーシティの視点で、メンタルヘルスケア施策についても検討することが重要であると感じる今日この頃です。



プラスアルファ

(一財) 京都工場保健会

西田 典充

京都工場保健会の産業保健推進室に所属しています。メンバーは、医師 12 名、事務職 3 名という大所帯で、産業医学はもちろん、総合病院を開設できるのではないかと思います。多様な背景を持つ先生方に指導をいただきながら日々の業務を行っています。そんな中で、臨床医学に関する背景を持たない私の $+a$ は何にするべきか？と自問自答していたのですが、趣味の延長の「IT」にすることとしました。（一般的な医師のイメージからどんどん離れていっていますが・・・）

一口に「IT」といっても範囲が広すぎるので、産業医学と相乗効果を生みそうな分野はなにかな？と考えてみると「人工知能」、「動的レポート生成」等のキーワードを思いつきました。これらの実践にあたり、統計プロ

グラミングソフトの「R」が活躍しそうでしたので、現在進行形で勉強中です。Rは、無料統計ソフトという側面もありますが、(ちょっと特殊な)プログラミング言語です。世界中の研究者が日々、新機能(パッケージ)を開発しています。統計ソフトとして使えるのも、統計手法に関するパッケージが豊富にあるからです。そして、それらの中には「人工知能を作る」ための物も用意されていて、色々な機械学習による人工知能の作成ができます。また、きれいにグラフを作るパッケージも用意されているため、健康診断データの可視化、集計等、産業医として、そして労働衛生機関の専門職として、働く人の健康を、データを駆使して支えるような仕事をしたい！というのが現在の目標の1つです。

最後に、こうして産業医として思う存分やりたいことに邁進することができているのは、京都工場保健会職員みんなの支援があつてのことだと感謝しています。また、学会員としては、「巨人の肩に立つ」ことを目標に、貢献できればと考えておりますので、引き続きご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。



『“現場”に出て感じること』

パナソニック健康保険組合

新田亜貴子

私は健保入職後8年間、産業保健の基礎となることを
 沢山学びながら、健診部門で人間ドックや海外渡航者健
 診に携わってきました。いつか産業保健の現場（＝健康
 管理室）で勤務したいという思いが叶い、昨年の春つい
 に健康管理室に異動となりました。

期待に胸を躍らせていましたが、当然の事ながら楽しいことばかりではありませんでした。異動先の健康管理室は、パナソニックの他の健康管理室と違い、開設して2年しか経っておらず従業員の方々にその存在と役割が十分認識されていません。健康問題を抱えていても相談に来ることは少なく、定期健康診断では、結果が要医療／要精密検査となっても自ら相談に来る方はほとんどなく、中には結果を見ない方もいます。

異動前に関わってきた人間ドックを受ける方の多くは健康意識が高く、海外渡航者健診を受ける方も、健康面の不安は日本で解決しておきたいという思いや、問題があると海外赴任できないという危機感もあるため、概ね

医療機関受診や精密検査に積極的かつ協力的でした。受診勧奨に応じなかったり拒否したりする方は僅かです。当事業所ではその割合が逆転しています。去年は、要医療／要精密検査の多さに驚き、加えてご本人の反応の乏しさにもどかしさを感じました。しかし、初めから結果や反応がよければ健康管理室は必要ないのですから、現在は伸び代が大きいと思うことにしています。

従業員の方々は“健康でいたい”という思いがある反面、産業医との面談や受診勧奨には「忙しくて時間がない」とよく言い、“仕事優先、自分の身体は二の次”、そんな印象を受けます。そしてその考え方は事業所の風土であるようにも思えます。『健康経営』は“社員の健康を企業の重要な資源と考えること”が基本です。時間はかかっても、少しずつ信頼を得ながら、健康経営の概念や個人の健康を尊重する風土を根付かせ浸透するように働きかけていくことが、今後の私たちの役割だと思っています。同時に、以前ある産業医が言っていたこと「健康管理室は従業員のオアシス」、皆さんにそんな風を感じてもらえるよう、現場で励みたいと思います。

最後になりましたが、年齢は中堅の域といえども産業看護職としては駆け出しです。研修会等でお会いしました折にはご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

シリーズ

自己紹介

私たちの職場 (41)

(株) クボタ 本社

人事部 健康管理室

北村 栄作



会社概要

(株) クボタは、1890年創業の機械製造販売メーカーです。「企業は社会とともに生きている」という基本理念のもと、農業機械、エンジン、建設機械、水・環境関連製品など、人の暮らしと社会に貢献する様々な製品を製造販売しています。国内は2本社（大阪、東京）・5支社・製造拠点13カ所、国内主要関係会社37社、海外主要関係会社40社であり、従業員数は本体が約1万名、グループ全体では約3万4千名です。筆者の勤務する本社地区（大阪市浪速区）には2,400名の従業員が在籍し、本体と関連会社13社の本社があります。

健康管理体制

健康管理室は人事部に属し、グループ会社を含む全従業員の健康管理を総括しています。スタッフは専属産業医1名（筆者で本社産業医と統括産業医を兼務）、非常勤嘱託精神科医2名、保健師・看護師6名、事務スタッフ2名と総括する室長の計12名で体制を組んでいます。2本社と製造拠点には常勤看護職がおり、選任産業医と連携して産業保健活動を行っています。それ以外の小規模事業場（支社、営業所等の事務所）には産業保健スタッフは常駐せず、本社のスタッフが対応・支援する体制となっています。

当健康管理室は本社地区を担当すると同時に、クボタ全社さらにはクボタグループ全体の健康管理の在り方を考え、健康診断結果判定、事後措置（就労・指導・医療区分判定）判断のクボタ統一基準（ガイドライン）を検討・作成し、全社とグループ会社に発信・周知するという重要な役割を担っています。会社経営上は健康リスク管理の充実に繋がり、従業員にとっては何処で働いても平等で均質な健康管理と産業保健サービスを受けることを理想・目標と考えています。

産業保健活動（主な取り組み）

従来から実施されている定型的健康管理業務として、健康診断の事後措置（就業上の配慮・措置が必要と産業医が判断した方への対応、個別面談保健指導、要受診者のフォロー）、長時間労働者への文書・面接指導、傷病休務からの職場復帰支援、健康相談対応、職場巡視等を産業医と看護職が連携して行っています。

昨今注力している取り組み活動はやはりメンタルヘルス施策です。企業としてのメンタルヘルスを中心とする健康管理への関心は年々高まっており、労働安全衛生週間における社長メッセージや安全衛生部策定の安全衛生指針、人事部のメンタルヘルス施策に関する活動目標等、メンタルヘルスに関する企業メッセージは多々発信され

ています。2013年には人事部のメンタルヘルス施策の一つとして拠点毎に心の健康づくり計画を策定するよう指示があり、本体全拠点での計画づくりが為されました。またスキルアップの目的で全拠点のメンタルヘルス担当者を集め、定期的に担当者会議が開催されています。本社では安全衛生委員会の下部組織としてメンタルヘルス推進委員会が設置されており、健康管理室長・産業医・安全衛生部員・人事部員・労働組合幹部がメンバーとなり、本社のメンタルヘルス活動を計画・推進しています。

私たち産業保健スタッフが担当する活動は、1) 本人、上司、人事労務担当者からの相談対応、2) 長期休務者の職場復帰支援、3) 一般従業員（セルフケア）と管理監督者への教育・研修、4) ストレスチェック実施、高ストレス者判定⇒産業医面接指導と看護職面談⇒会社側への産業医報告・意見書作成（必要時）、5) 職場のストレス環境を調査・分析（ストレスチェック結果の利用、職場巡視等）⇒職場環境改善の支援と多岐に亘ります。

上記4)の高ストレス者対応について少し詳しく説明しますと、弊社では職業性ストレス簡易調査票（57項目）を用いたストレス診断を1994年～毎年1回、全従業員を対象に実施し、心身のストレス反応6尺度のうち、“抑うつ感”のスコア=1（5段階で最も強い）と判定された者を“要フォロー者”として産業保健スタッフ（産業医、看護職）との面談をメール等で勧奨していました。しかし要フォロー者で面談勧奨に応じる者は少なく、面談実施率は12%前後で低迷していました。従って、法制化されたストレスチェックにおいても勧奨に応じて医師面接指導を申込み高ストレス者は同様にかなり少ないことが予想されました。そこでクボタグループでは、高ストレス者をできる限り漏れなく救い上げ、フォローすることを目的として、医師面接を希望しない高ストレス者には全員、強制ではありませんが、看護職による“補助面談”を行うというスキームを考案し、昨年から実施しました。補助面談では、1) セルフケア（ストレスへの気づきと対処法）指導を必須とし、必要と判断すれば、2) 医師面接の再勧奨、3) 専門医療機関への受診勧奨を行っています。

今後はストレスチェックの集団分析結果を利用した職場環境改善活動が推進されるよう、人事労務部門と連携して、管理監督者と従業員への支援をなお一層強化したいと思います。

「第22回近畿産業医部会研修会を終えて」

株式会社平和堂

河津 雄一郎



9月2日に大阪市立大学医学部学舎において、「産業医のための過重労働対策」をテーマとした研修を開催いたしました。本研修会は、大阪府医師会、滋賀県医師会とともに、産業医科大学ストレス関連疾患予防センター(CSDC)にもご共催いただきました。

まず、CSDCの専任スタッフである宮崎洋介先生より、過重労働に対する国の政策から、過重労働が循環器疾患・精神疾患を生じると考えられている機序、過重労働による健康影響に関する様々なエビデンスまで、幅広い内容の基調講演をいただきました。続く「過重労働による健康障害を防ぐには」をテーマとしたシンポジウムでは、まず、京セラ本社産業医の山田達治先生に常勤の専属産業医の立場から、総合的な健康管理の中に組み込んだ過重労働対策の実際についてご紹介いただきました。次に、梶原産業医事務所の梶原隆芳先生には、専属産業医と嘱託産業医の両方の経験から、嘱託産業医として、各クライアントの企業文化を理解し、各企業の琴線に触れるような対策を提案することが重要であるというお話をいただきました。最後に、産業医科大学産業生態科学研究所呼吸病態学研究室 准教授の和泉弘人先生から、ストレスサーやストレス反応の測定や、客観的指標の開発状況についてお示しいただきました。基礎医学の立場からも、過重労働の健康影響について検討するのであれば、まずは正確な残業時間の記録をしなければ始まらないというのは、基本的なことですが、現場の産業医にとっても大変重要な示唆であると感じました。その後、座長のブラザー工業上原正道先生と宮崎先生を加え、活発な討論が行われました。

過重労働の健康影響は、様々な要因が絡み合い大変複雑ですが、産業医として提供できるソリューションを考える上で大変有意義なシンポジウムとなりました。末筆ながら、皆様のご協力により盛会に開催することができましたことを、お礼申し上げます。

「平成29年度近畿産業看護部会第1回定例研修会・交流会に参加して」

(一財) 京都工場保健会
保健指導課

野元 有紀



浜松医科大学医学部看護学科地域看護学講座 教授 巽あさみ先生が、「学会発表って、ハードルが高い？研究のはじめ方 学会発表とは」というテーマでご講演をされました。

“研究の始め方”から学会発表という広いテーマでしたが、具体的なお話しもあり、とてもわかりやすい内容でした。

「研究」と聞くと、非常にハードルが高い印象を受けますが、講演を通して、研究に対する印象が身近なものとなり、具体的な研究プロセスをイメージすることができるようになりました。

例えば、私たちが日々業務の中で感じる問題や疑問などを、どのように研究という形に落とし込むかは、とても悩ましいところですが、研究のプロセスを一步步確実に踏みながら進める重要性を改めて強く認識しました。

更に、本には記載されていないコツや相談先、最新情報、助成金、職場に倫理委員会がない場合の対応等もご教授いただきました。

今後、産業保健師として、常に、専門能力の向上と最善の活動を心掛け、産業看護の発展に寄与するためにも、積極的に研究活動に取り組んでいきたいです。

又、今回は、初の企画となる交流会にも参加させていただきました。

私自身、他県から京都に転居し、4月から産業保健師として再スタートしたばかりでしたので、ネットワーク作りをしたいという思いもあり参加させていただきました。

交流会は、1グループ4～5名のグループごとに行われました。内容は、自己紹介の後、グループ内でより多くの共通点を探すというものでした。

同じ産業看護職でも、企業内の産業看護職、企業外労働衛生機関の産業看護職、産業保健総合支援センターの職員等、立場が異なっていましたので、様々な情報を共有することができました。一方、立場が異なっている、共通の悩みもあり、意見交換もできました。非常にアットホームな雰囲気で行われ、有意義な時間となりました。

近畿技術部会からのお知らせ

近畿技術部会長 圓藤陽子

平成 29 年 5 月 13 日付で理事長より技術部会幹事を委嘱され、本年度より河合俊夫先生から技術部会会長を引き継ぎました労働衛生コンサルタントの圓藤陽子です。今後 2 年間、技術部本



会幹事の長見まき子先生（関西福祉科学大学）および竹内靖人先生（中災防・大阪総合センター）との三人体制で、運営方針及び研究会内容について部会員の皆様のご意見をいただき、皆様のお役に立てるように運営してまいりたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

今後の予定としては、11 月 18 日（土）に奈良で開催される第 57 回近畿産業衛生学会において総会を開催したいと思っております。議題内容は、前回ご説明できなかった会計報告と今後の研修会の運営についてです。会場と時刻などの詳細につきましては、後日葉書にてお知らせ致します。

また、6 月 27 日の総会でいただきましたご意見に従い、平成 29 年度の研修会を、平成 30 年 1 月 20 日（土）13：30～16：30 に開催予定としています。場所は大阪梅田のハービス ENT オフィスタワー 9 階の予定です。

テーマとしては、近年多くの事業場で問題となっている慢性腰痛と転倒災害を選びました。慢性腰痛については、「新たな視点に立った職場の腰痛・肩こり対策」というテーマでテレビでもご活躍の東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ＆マネジメント講座 講座長の松平浩特任教授に、転倒災害については、「労働者の運動機能から転倒リスクは予測できるのか？」というテーマで労働安全衛生総合研究所の大西明宏主任研究員に職場ですぐに役立つ実践的なご講演をしていただく予定です。地方会の皆様ふってご参加ください。なお本研修会は日本医師会認定産業医生涯研修（実地 2 単位・専門 1 単位）を申請中です。

産業看護部会からのお知らせ

○第 2 回定例研修会のご案内

日 時：平成 30 年 1 月 20 日（土）
13 時 30 分～16 時 50 分（受付 13：00～）

会 場：エル・おおさか 南館 10 階 1023

内 容：

- ①講演：「LGBT とハラスメントについて学ぶ～産業看護職としてどのような対応ができますか？～」
男女雇用機会均等法の“セクハラ指針”の改正により、2017 年 1 月からは LGBT の人たちへのセクハラ防止が 事業主の義務となりました。セクシュアリティとハラスメントについて正しい知識をもち、誰もが安心して働ける職場環境にしていけるよう産業看護職の役割について考えてみましょう

講 師：三木啓子先生 アトリエエム株式会社 代表

- ②懇談会：「産業保健看護専門家制度を踏まえた継続教育について～産業保健をめぐる動向と継続教育の在り方～」 意見交換会を予定

講 師：五十嵐 千代先生

日本産業衛生学会産業看護部会部会長

定 員：100 名

○【第 3 回ファーストレベル準備講座のお知らせ】

2018 年 1 月 7 日（日）予定の産業保健看護専門家登録者試験は登録者が産業保健看護専門家になる為のファーストステップです。

「ファーストレベル準備講座」をその試験対策としては是非ご活用ください。

日 程：11 月 18 日（土）10：00～16：00

開催場所：東京工科大学 蒲田キャンパス

申し込み方法詳細、問合せは産業看護部会本部 HP をご参照ください。

○「産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査」（2017）実施について

平成 29 年 11 月、学会員対象に調査を実施いたします。郵送にてご案内させていただきますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

産業看護部会本部 HP：<http://sangyo-kango.org/wp/>

近畿地方会 HP：<http://jsoh-kinki.jp/ohn/index.html>

編 集 後 記

消防庁によりますと、今年の熱中症の救急搬送者は湿度の高い大阪が最も多かったとのこと。年齢別では、成人が 1/3 を占めており、職場における発症者も多いようです。熱中症対策は、暑くなる前に企画されますが、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」になっていないでしょうか。最近、熱中症環境を体感する設備が開発されたようですので、寒い季節に体

感して予防対策を考えても良いのではないのでしょうか。

（圓藤陽子）

編集委員（50 音順）

圓藤 陽子 清原 達也

鈴木 純子（担当理事）

藤岡 滋典（代表幹事）

藤吉奈央子 村田 理絵（代表幹事）